



2023. 10. 12

発行：嶺南教育事務所  
 TEL：0770-56-1309（代表）  
 FAX：0770-56-1391  
 MAIL：reo-k@chive.ocn.ne.jp

## 嶺南教育実践フォーラムへの道 part3 [特別講演について]

今回は特別講演の紹介をします。R5嶺南教育実践フォーラムでは「つながりながら、拓く」のテーマのもと、学校における「つながり」を見つめ直す機会になればと考えています。石井先生は、長年、「子どもによる子どものための学びを保障する授業」を追究され、授業の中で起きる子ども同士の対話の意味を見取る教師のまなざしの大切さを説いておられます。先生のお話をお聞きして、教育とは何か、教師とは何か、学校とは何かを立ち止まって考える機会としたいです。



### 【特別講演テーマ】

「学び合う学び」を子どもたちに

東海国語教育を考える会 顧問 石井 順治

### 【講師プロフィール】

三重県内の小学校で主に国語教育の実践に取り組むとともに、「国語教育を学ぶ会」の事務局長、会長を歴任し、四日市市の小中学校の校長を務める。退職後は、佐藤学氏（東京大学名誉教授）や秋田喜代美氏（学習院大学教授）と連絡を取りながら、各地の学校を訪問し、授業の共同研究を行うとともに、「東海国語教育を学ぶ会」の顧問を務め、「授業づくり・学校づくりセミナー」の開催に尽力している。主な著書に、『教師の話し方・聴き方 ことばが届く、つながりが生まれる』『「対話的学び」をつくるー聴き合い学び合う授業』『「学び合う学び」を生きる～“まなざし”と“内省的実践”がつくる授業』（ぎょうせい）他多数。



…教師の語る言葉が子どもに届き、子どもの話す言葉が教師に届く、そういう双方向の「話す・聴く」が可能になることで様々な「つながり」が生まれるということです。人と人のつながり、考えと考えのつながり、テキストと考えのつながりなど、時間を超え、空間を超えて生まれます。そのつながりが、子ども達の人間性をはぐくみ、豊かな学びを生み出すのです。（「はじめに」より）



子どもたちから出される言葉や考えを、ただの欠片として通り過ぎるような聴き方しかできなければ、その欠片はただの欠片として打ち捨てられ、埋もれてしまうことになる。大切なのは、ただの欠片ではなく、「学びのかけら」として聴くことができる耳をもつことだ。目をもつことだ。…間違いや分からなさを歓迎し、そこから学びを引き出すということは、「一人の子どものみ独りにしない授業」を実現する。すべての子どもに学ぶ喜びをもたらす。間違っても、分からなくてもあきらめず取り組もうとする子どもをつくり、そういう子どもへのリスペクトを生む。（「第4章」より）



子どもたちは、ただ単に誰かに対して言葉を発していたのではなく、…、本気になって突き詰めたい、考え抜きたい対象があり、その対象に対して、自分はどう考えるのかという自分自身の考えを夢中になって探していたということである。仲間との対話には、そうした強い課題意識に基づく学びの対象との対話があり、自分自身の学びを見つけ出そうとする自己との対話がある。それがなければ、対話的学びとは呼べない。（「第I部」より）



探究はまだまだ続きます。次回はpart4で…。

《問い合わせ》  
 研修課 0770-56-1302